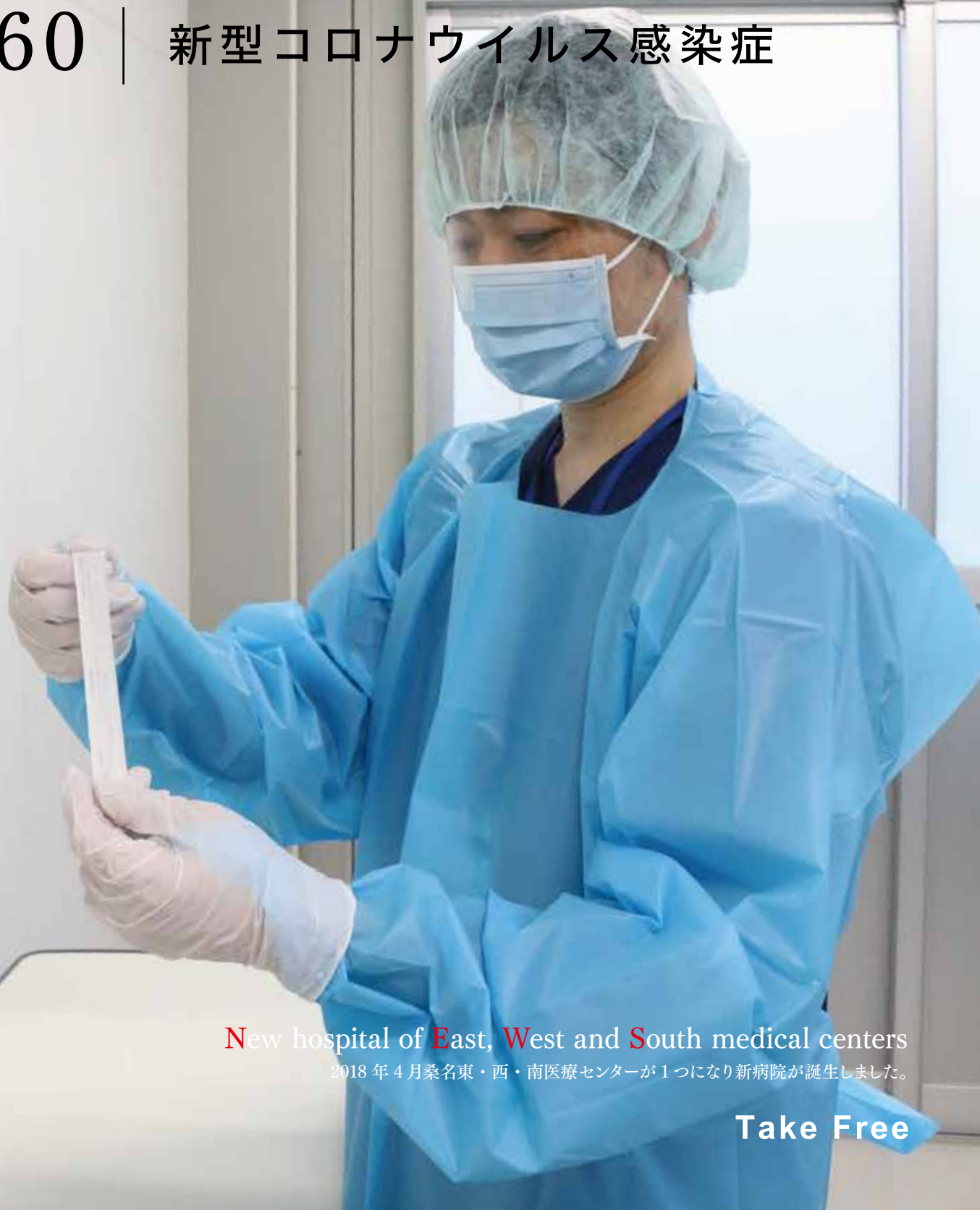


NEWS

Kuwana City Medical Center

vol.60 | 新型コロナウイルス感染症



New hospital of East, West and South medical centers

2018年4月桑名東・西・南医療センターが1つになり新病院が誕生しました。

Take Free

新型コロナウイルス感染症

猛威を振るって拡大を続ける新型コロナウイルス感染症。
4月には「緊急事態宣言」が発令され、日常生活も一変し、
医療現場でもひっ迫した状況が続いています。
今まで経験したことのない日々の対応に、戸惑いながらも、
現場のスタッフは奮闘しています。

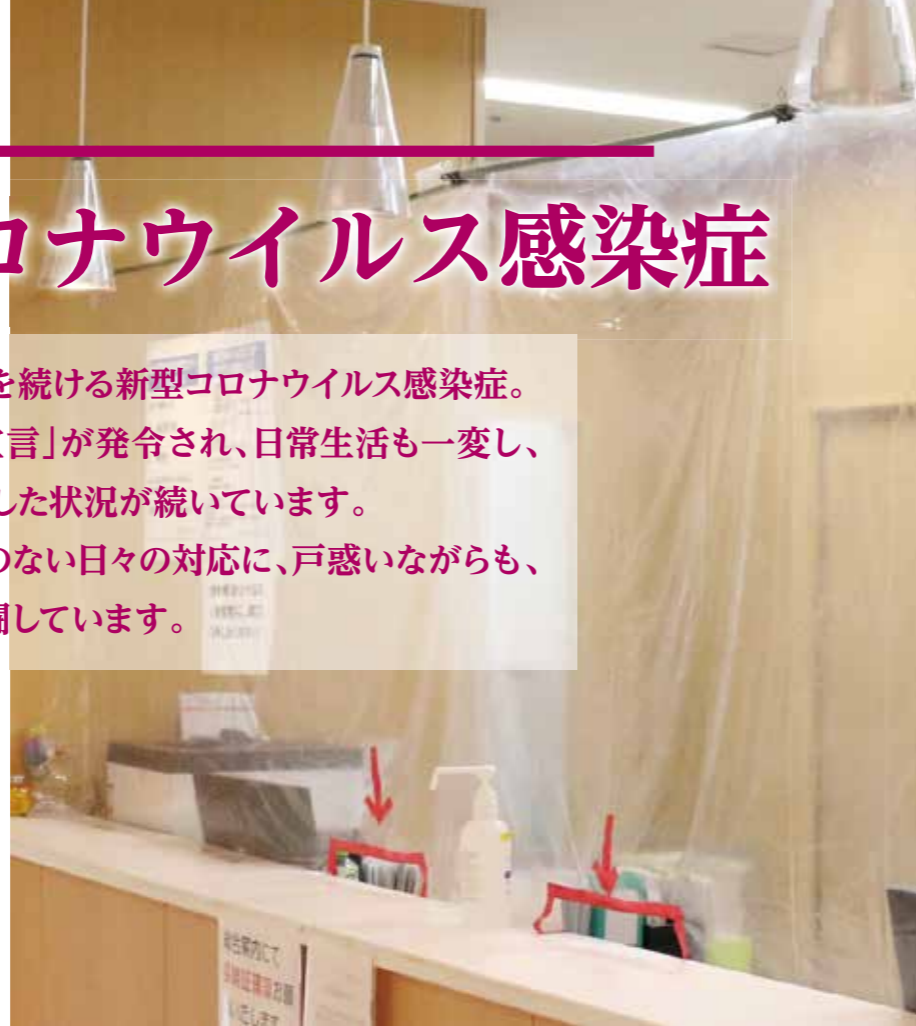


感染対策委員
呼吸器内科部長 油田 尚総

「SARS-CoV-2」をご存知でしょうか。新型コロナウイルスの正式名称(国際ウイルス分類委員会コロナウイルス研究グループにより命名)です。SARS-CoV-2により引き起こされる病気を「COVID-19」とWHOが命名しました。すなわち、より専門的に表現すると新型コロナウイルス=SARS-CoV-2であり、新型コロナウイルス感染症=COVID-19ということになります。

COVID-19と診断するためには、SARS-CoV-2の病原体を検出することが現時点では要求されます。メディア報道で有名となったPCR検査のことです。PCR法は核酸検出検査の一つでウイルスの遺伝子配列を増幅することでウイルスを検出します。核酸検出検査以外にもウイルス抗原検査やウイルス抗体を検出する血清診断があり、状況により使い分けます。より専門的な内容を追求される方は、厚生労働省から「COVID-19病原体検査の指針(第1版)」が公表されていますので、そちらを参考されるのがよいでしょう。

治療に関しては、急速に拡大した新規ウイルス感染症のため、日本の保険診療制度の枠組みでは対応しきれず、地域(国という意味も含める)・施設間格差があり、難しいところがあると思います。この点に関しても、少しでも標準化しようと厚生労働省から「COVID-19診療の手引き(第3版)」が公表されていますので、医療従事者を対象とした専門的な内容ではありますが、興味のある方は一読されてはいかがでしょうか。短期間で情報が更新されているのがわかると思います。どの分野もそうでしょうが、最近の医療分野の情報更新速度はすさまじく、新規技術や治療を遅滞なく臨床提供するため、苦労している(?)医療現場の状況が垣間見れるかもしれませんよ。



当センターでの取り組み

感染疑いの患者さんが、一般外来を受診された患者さんと接触しないよう、特別外来を設置し、紹介状を持参の患者さん、保健所から依頼の患者さんを中心に、診察・PCR検査等を行っています。

また、院内感染が起こりますと、外来・救急車の受け入れ、入院等の制限や中止が必要となることもあり、地域の皆さんに多大なご迷惑をおかけすることとなります。

皆様のご協力をいただきながら、職員一丸となって、感染拡大防止のために、以下の取り組みを実施しています。

よろしくご理解いただきますよう、お願い申し上げます。



病院長 市川 毅彦

患者さん、ご家族さんへのお願い

- 来院際のマスク着用
- 受診前の体温測定
- 待ち合いスペースでの会話を控える
- 入院患者さんとの面会禁止

職員への対応

- 出勤前の体温測定、健康管理
- 手指消毒、業務中のマスク着用
- 昼食時の座席間隔の確保と会話の制限
- 多人数での研修、会議等の制限

院内環境整備

- 入院棟3階エレベーター前の赤外線サーモグラフィでの検温測定
- 手指消毒薬の設置
- 受付カウンター等のビニール製カーテンの設置
- ソーシャルディスタンスを目的とした待ち合いスペース等の座席間隔の確保
- 入院患者さんの荷物預かり場所の設置(面会禁止時)

- 新型コロナウイルス感染症対策本部を発足し、定期的な対策会議の開催
- ICT(感染対策)チームによる感染対策マニュアル等の作成と院内周知

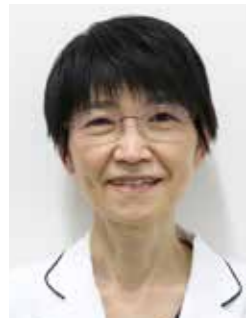


【検温測定】



【コロナ感染対策会議】

当センターで行われる検査



新型コロナウイルス感染症への感染を調べる検査として、**抗原検査とPCR検査**の2種類を行っています。患者さんの状況に応じた検査手法を選択し、迅速で精度の高い新型コロナウイルス検査を行うことを心がけています。今回は2種類の検査方法について紹介させていただきます。

検査室主任 伊藤 恵美子

2種類の抗原検査

抗原検査は、ウイルスが体内に入ってきた際に、ウイルスのタンパク質が抗原として認識され、抗体が作られる原理を利用したものです。すなわち、ウイルスのタンパク質である抗原の有無を調べています。抗原検査には定性検査と定量検査があります。定性検査はインフルエンザ検査と同じようなもので、簡単に早く結果が出る手法です。一方、定量検査はウイルスの抗原量を測定するため、PCR検査と同じくらいの精度を持っています。当センターでは精度の高い「**抗原定量検査**」をルミパルスという免疫検査測定装置を用いて、検体が検査室に届いた後、タンパク質を抽出する処理をし、約1時間で検査結果を報告をする体制を整えています。

精度の高いPCR検査

PCR検査(核酸検出検査)は、メディアでも毎日耳にするかと思いますが、現時点では最も信頼性の高い検査で、ウイルスを特徴づける遺伝子を増やすことで、ウイルスの有無を調べる検査方法です。この検査ではウイルスの量が少なくても検出することが出来ます。当院ではスマートジーン、TRCReady-80という2種類の機器を使ってPCR検査を行っています。



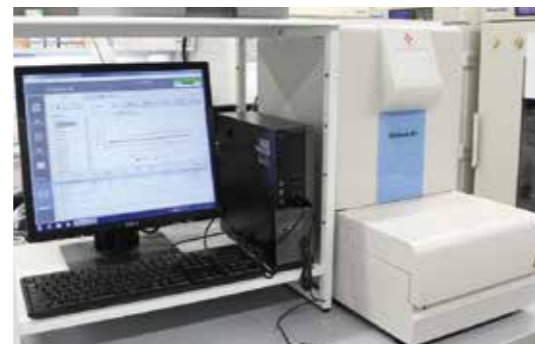
【安全キャビネット】
ウイルスが拡散しないように迅速検査、検体抽出を行います。



【ルミパルス】



【スマートジーン】



【TRCReady-80】

現場で働く看護師の立場から…



新型コロナウイルス感染拡大が問題となる中、我々看護師は、疑似患者さんや陽性患者さんへの診療補助や看護といった様々な場面でこの感染症と向き合って仕事をしています。今回はその取り組みを少し紹介させていただきます。

看護部長 中山 均

看護部全体での取り組み

看護部として、妊婦以外の全員で取り組むという方針で対応しています。看護職として働く上で、まずは自分自身の安全が守られていなければなりません。しかし、新型コロナウイルス感染症の正しい知識や感染防御の技術を身に付けたとしても、この状況下では不安を訴えるスタッフもいます。そこで職員個々の中にある不安を感染管理認定看護師や、各部署の看護師長に話を聞いてもらうようにし、少しでも不安が軽減できるように努めています。

病院としてのバックアップ体制構築

帰国者接触者外来の運用や新型コロナウイルス感染症陽性患者さんの看護をするに当たり、自身の家族への感染などが不安な職員に対しては病院での宿泊やホテルの準備を行っています。また、感染防御に必要な物品の不足に対しては自作して対応をしています。

様々な不安や物品の不足を克服しながら、当院の看護職は使命感を持って新型コロナウイルス感染症拡大防止に対して業務を行っています。地域の皆さんには、国や県の方針に基づき、適切に行動をしていただき健康な日々を過ごしていただきたいと思います。

【感染者対応病棟】
iPadを使用して、患者さんとのやりとりを行っています。必要なものがあれば、希望を伺い、売店での物品購入も行います。



発熱したらどうしますか？

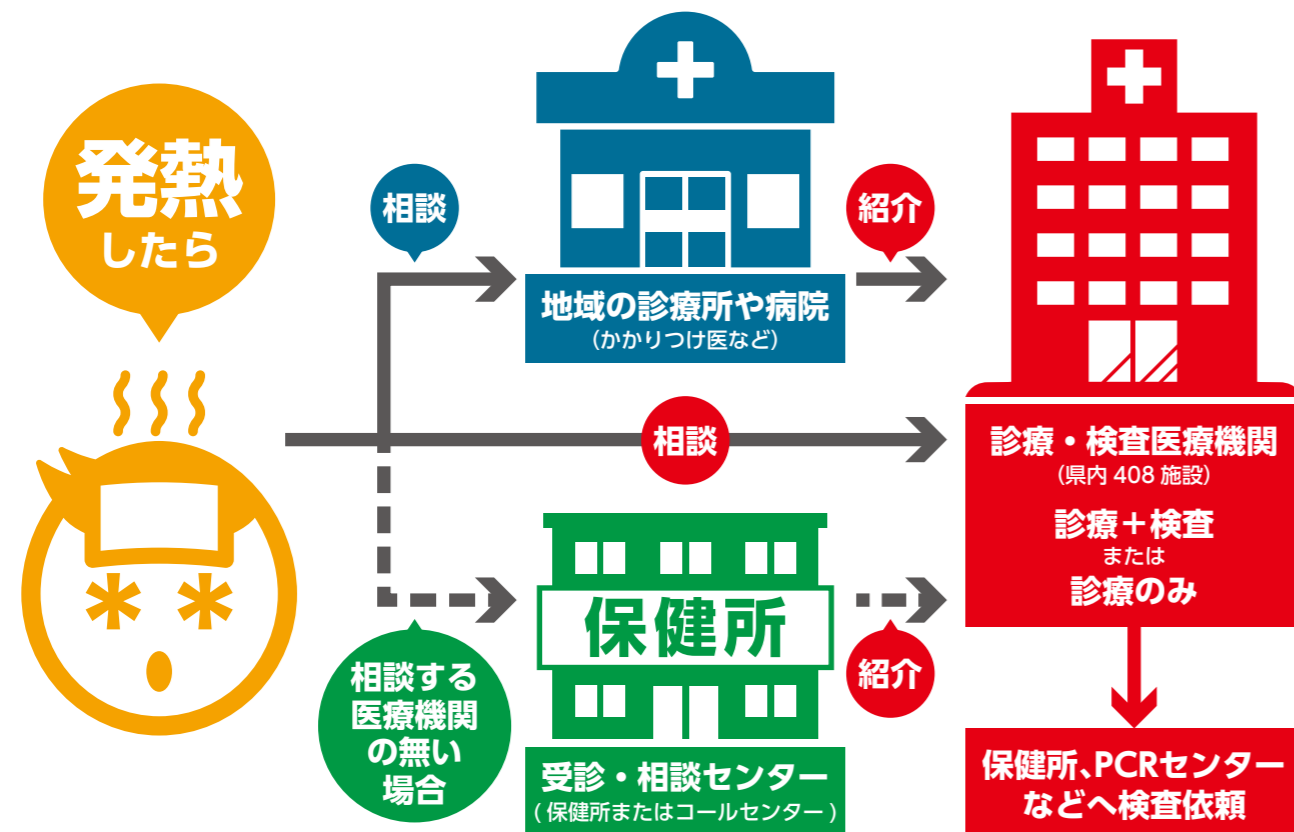


理事長 竹田 寛

これから本格的な冬を迎えますが、もし発熱したらどうしますか？コロナかも知れないし、インフルエンザかも知れません。あるいは他の病気かも？コロナが怖いので、なるべく早くPCR検査を受けたいと思うのが当然です。従来は保健所へ相談し、コロナの疑いがあれば、保健所か地域のPCRセンターにてPCR検査を行い、陽性であれば、しかるべき病院や施設へ紹介されました。しかしPCR検査機器の不足や保健所などのマンパワー不足などにより、実施できるPCR検査数には限界があり、十分に機能しているとは言えませんでした。

また発熱した患者さんが、近くの診療所や病院を受診しようとしても、断られることも少なくありませんでした。なぜなら普通の診療所や病院では、新型コロナウイルス感染に対する防御措置を講じておりませんので、万一コロナの患者さんを無防備で診察して院内感染を起こしたら、とんでもないことになるからです。そのため「こんなに熱があるのに、診察もPCR検査もしてもらえない!!」という不満が全国各地で起こりました。そこでその不満を解消し、これから急増する発熱患者に対応するために、この度新しく、「診療・検査医療機関」が設けられました。これは発熱した患者の診療や検査を行う医療機関のことで、大きな病院から小さな病院、さらに個人病院まで含まれます。三重県では10月末時点で408医療機関が指定を受けましたが、県内の医療機関の約3割に相当します。

そこでもし私たちが発熱したら、どのように行動すべきか、下表にまとめてみました。



- 1) まず、身近な個人病院や病院の「かかりつけ医」などに、発熱したことを相談してください。医師が「診療・検査医療機関」への受診が必要と判断した場合には紹介してもらえます。たまたま相談した医療機関が「診療・検査医療機関」であれば、そのまま診てもらえます。
- 2) 相談する適切な医療機関がない場合には、保健所またはコールセンター内に設置されています「受診・相談センター」へご相談ください。ここでも必要と判断された場合には、最寄りの「診療・検査医療機関」を紹介してもらえます。
- 3) 「診療・検査医療機関」には、自院で診療も検査も実施する施設もありますが、診療しか行わない施設もあります。その場合には、保健所やPCRセンターなどへ検査を依頼します。
- 4) 「診療・検査医療機関」はこれからも増えていくと思われていますが、今のところ病院名は非公表となっています。したがってこれからは、発熱患者の診療は「診療・検査医療機関」が担当し、その受診相談を担うのが、身近な診療所や病院の「かかりつけ医」などの医師です。今まで保健所に集中していた相談や検査業務を県内の医療機関で広く分担しようとするものです。今「かかりつけ医」をお持ちでない方は、できるだけ早く確保しておくことも大切かと思われています。

特別外来の設置



【診察室】

【スタッフエリア】

インフルエンザは例年12月～3月に流行します。今後、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行が予測され、どちらも呼吸器感染症で症状が似ていることから、初期段階では判断がつきにくいと言われています。このことから、当センターでは発熱症状のある患者さんと一般外来受診患者さんとの接触を避ける目的でP4駐車場に簡易診察室を設置し、今後の流行期に向けての体制を整えております。

これからのコロナ対策について



2020年9月28日、これからのコロナ対策において、市民の皆さん、医療機関、行政がどのように対応していく必要があるか、伊藤桑名市長と当センター竹田理事長の対談が行われました。

- 市長**：まず、新型コロナウイルス感染症における総合医療センターの医師、医療スタッフ、関係者に心より感謝申し上げます。
- 市長**：今までに経験したことのない状況で相当苦労されたんじゃないですか。
- 理事長**：桑名市の場合、医師会、保健所、市、医療センターの連携が取れており、検査の協力体制や患者情報の共有が十分できていました。医療センターのスタッフも未経験、想定外の事象が多かったのは確かですが、それは医師会や保健所も同じだったと思います。その中で、保健所では、医師会と医療センターの負担をうまく分散させて、負担の軽減に努めていただきました。また、医師会も早々にPCRセンターを設置していただき、開業医の皆さんにも協力していただきました。それぞれの協力があって、ここまで乗り切ることができたと思っています。
- 市長**：現場では緊迫した状況が続いていましたか。
- 理事長**：北勢地域は、特に7月から8月の中旬にかけて非常に厳しい状況であったと思います。検査数も非常に多い日が続きましたし、入院数も急激に増加しました。空き病床数も少なく、医師会や保健所も苦しかったと思います。感染指定病院や他市の中核病院とも連絡を取り合って、その時々で最善の治療をしてきました。
- 市長**：救急や周産期など、地域の中核病院としての役割もありますし、コロナとの共存は今後も大きな課題となります。
- 理事長**：安定的な医療を提供するため、何をおいても院内での感染は避けなければなりません。院内では、今年の2月から3月頃は、不要不急手術を先送りにしていましたが、その後国の方針もあり、医療機関でもコロナ禍での適切な運営を求められました。蔓延期には、検査に多くの医師が連携して関わるようにし、一部の診療科に極端な負担がかからないようにして、病院の機能を維持しています。それでも、未知のウイルスに対する恐怖感は相当なものであり、従事する医師、看護師には計り知れないストレスがかかります。継続して職員の心身のケアをしながら、医療の確保をしなければなりません。



市長：行政として、少しでも医療従事者の人たちの支援になるよう、マスクや消毒液の寄付を優先的に医療機関に渡したり、備品などを購入しやすくなるよう、新型コロナウイルス対策基金を設けて対応したりして一丸となって取り組んできました。

理事長：感染対策のため、様々な備品が必要となります。特に今年の4月頃は、マスクや消毒液、ガウンなどの価格が高騰し、確保に苦労しました。また、感染防止のため、特殊なフィルターや空気清浄機なども必要となりました。そのほか、コロナに対応した従事者には、家族のため自宅に帰らず、院内などに宿泊して業務に当たった医師や看護師もいますので、市からいただいた支援については大変心強い思いでした。

市長：第2波が少し落ち着いてきましたが、今後はインフルエンザと重なる時期が訪れます。市民の皆さんにはどのような行動をすることが望ましいでしょうか。

理事長：これから冬に向かうため、コロナとインフルエンザの区別がつかない症状の人がでてきます。病院としても、発熱している患者さんを他の患者さんと分ける必要があると考えています。そのため、発熱者専用のエリアを設けて、そこで診察をすることで、感染防止を図ることを計画しています。市民の皆さんには、落ち着いて、医療機関を受診していただきたいと思います。また、これまで通り、うがい手洗い、マスクの着用に心がけ、インフルエンザの予防接種を受けるなどの対策を講じていただくとよいと思います。



市長：総合医療センターから市へ何か要望はありますか。

理事長：一つは、感染防止のための啓発をお願いしたいと思います。行政の発信力は、医療機関と比較になりません。広報誌などを通じて、感染防止を推奨してもらえれば、コロナだけでなくインフルエンザの予防にも効果があると考えられます。二つ目は、医療機関への支援を国へ呼びかけていただければと思います。コロナ禍で、本院も含め、各医療機関の経営は激しい状況下に置かれています。各病院でもできる限りの感染防止対策に努めていますが、診察を控える患者さんも多いように思います。ただ、受診を控えることで、症状が悪化する場合も見受けられますので、コロナに対応する病院だけでなく、全ての医療機関へ、感染防止対策のための支援や経営の安定化に対する支援を呼び掛けていただきたいと思っています。

市長：ありがとうございます。今後も行政、医療機関、市民の皆さん一丸となって乗り切りましょう。



With you 医療人



【専門・認定看護師】第1弾！

当院では、現在11名の専門・認定看護師が活躍しています。専門・認定看護師とは、高度化し専門分化が進む医療現場において、水準の高い看護を実践できると認められた看護師のことで、専門看護師には患者本人だけでなく、患者さんの家族や地域との連携を図ったり、看護師の教育をするという仕事も加わります。患者・家族によりよい看護を提供できるよう、専門看護分野・認定看護分野ごとの専門性を発揮しながら、専門看護師は「実践・相談・調整・倫理関係・教育・研究」の6つの役割、認定看護師は「実践・指導・相談」の3つの役割を果たして、看護の質向上に努めています。当院で働く専門・認定看護師について、本号と次号の2回にわけて紹介します。



がん看護専門看護師
岩田 友子

活動内容

- がん相談支援センターにて、がん患者さんやご家族の治療やケアの相談やサポート。
 - ・患者さんやご家族の治療や症状緩和に関わる相談
 - ・患者さんやご家族が納得して治療を受けられるよう、一緒に最善を考えること
 - ・がん患者さんの療養上の相談
 - ・県のがん相談支援センターや患者会と共同で、患者サロンを開催するための支援
- 緩和ケアチームの企画・運営。
- 緩和ケア外来の立ち上げ。
- がん相談支援センターに関わる部門の立ち上げ。

認定看護師を志した理由

臨床の中でたくさんのがん患者さんと関わり、その人らしく生きることを支えたいと考え、大学院でがん患者さんの希望に関する研究を行ってきました。専門看護師の資格を取得できたのはたくさんのお患者さんやご家族に支えていただいたおかげです。患者さんやご家族の笑顔のため、相談やサポートを続けていきたいです。



がん化学療法看護認定看護師
寺本 朋代

活動内容

- がん化学療法を受ける患者とその家族へのサポート。
- がん化学療法看護についての実践・指導・相談対応。
- 当院における質の高い「がん看護」の実践を目指して、がん看護分野の専門・認定看護師との協働。
- 化学療法委員会への参加。

認定看護師を志した理由

外科病棟で勤務していた時の受け持ち患者さんからの一言がきっかけでした。食道がんで入院中の患者さんのある一言で、認定看護師への道を考え始めました。その後、悩んでいた時期もありましたが、上司への相談、説明会への参加、日本看護協会からの情報収集などを経て、「がん化学療法看護」分野を志しました。また、地域・社会の医療情勢、病院の動向もふまえて、この分野を選択しました。



がん性疼痛看護認定看護師
大原 康代

活動内容

- がん性疼痛に関する最新の知識を取得し、個別的なケアの計画・実践。
- がん性疼痛に用いる薬剤を適切に使用し、その効果の評価。
- がん性疼痛を有する患者や家族の生活の質を維持・向上できるような看護援助。
- がん看護の質の向上のため、がん分野の専門・認定看護師との協働。
- がん性疼痛看護の実践を通して、役割モデルを示し、看護職員への指導・相談。

認定看護師を志した理由

新人看護師だった頃から、がん性疼痛による苦痛を伴う患者さんと関わる機会が多く、ずっと患者さんの辛さに寄り添い、看護援助を行いたいと思ってきました。看護師としての経験を積んできましたが、がん患者さんと向き合うには、根拠に基づいた知識と客観的に評価する能力が必要だと考えるようになりました。上司の「興味がある分野なら、目指してみたら？」の言葉に背中を押されて、認定看護師を目指しました。



緩和ケア認定看護師
鍛地 奈津子

活動内容

- 患者さんや家族のさまざまな苦痛が少しでも和らぐようにサポート。痛みや不眠、不安や生きている意味の消失に伴う苦痛への対応。
- 緩和ケアチームの一員として、全人的苦痛へのケアに関する相談への対応。
- 緩和ケア委員会の企画・運営。

認定看護師を志した理由

元々、緩和ケアに憧れて、看護師になりました。一般病棟やホスピスでの経験を、患者さんや家族にはもちろん、一緒に働くスタッフにも、何らかの形で還元できたら…という思いで、認定看護師を目指しました。



認知症看護認定看護師
横山 智子

活動内容

- 認知ケアチームでのラウンド。
- 認知症ケアについて実践、指導、相談。
- 院内認知症ケア研修の実施。
- 認知症委員会の企画・運営。

認定看護師を志した理由

急激な高齢化に伴い、増え続ける認知症の症状は多種多様で、人それぞれ現れ方が違います。病院内の環境は、行動・心理症状を助長・増強させてしまいますが、これらの症状には隠れたニーズがあり、適切な対応で症状の緩和が期待できることから、認知症者の支援をする認定看護師を目指しました。週2日の分散型講義や講習で認定取得条件の教育課程をクリアできることを知り、働きながら取得できました。

治る脳梗塞と治らない脳梗塞！

脳梗塞とは脳の血管が詰まって脳細胞が壊死する病気ですが、血管が閉塞してその領域の細胞がすぐに全滅するわけではありません。ただし時間的な猶予はせいぜい数時間です。

勘違いされやすい脳梗塞の症状

脳梗塞の典型的な症状は、片方の手足の麻痺や痺れ感と上手く喋れないといった言語障害です。顔が曲がることもあります。ただし「頭は痛くならない！」ということが意外に知られていません。クモ膜下出血や脳出血など頭の中に出血する病気とちがって「頭痛が無い」ことが特徴です。

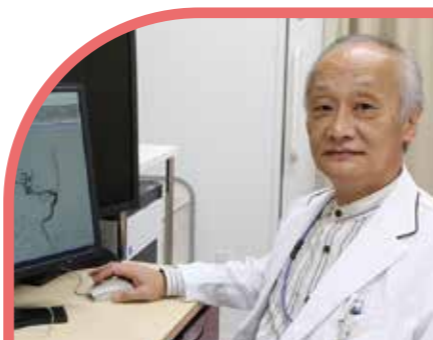
脳梗塞の原因

高血圧・高コレステロール血症・糖尿病などの基礎疾患が原因で、頭の血管が動脈硬化で細くなり詰まってしまう脳梗塞(ラクナ梗塞やアテローム血栓性脳梗塞)、不整脈が原因で心臓の中に大きな血栓ができあがり頭に飛んでくる脳梗塞(心原性塞栓症)、最近増えているのが頸の血管に油のゴミが溜まり(頸動脈狭窄症)それが原因でおこる脳梗塞などがあります。

治る脳梗塞と治らない脳梗塞とは

全ての患者さんに当てはまるわけではありませんが、脳の血管が詰まってから4.5時間以内にrt-PA(アルテプラゼ)という血栓を溶かす点滴をすれば、脳梗塞の症状が治るか改善できます。閉塞した血管の場所や原因によって、血栓回収療法と呼ばれるカテーテルを用いた血管内治療で再開通を行う場合もあります。遅れて病院に来ても、既に脳梗塞が完成している患者さんは治せません。

治る脳梗塞か治らない脳梗塞かは、発症してから治療を受けるまでの時間で決まります。頭が痛くないからといって家で様子をみないで、麻痺や言語障害が出現したらすぐに救急車を呼んでください。



副院長・脳神経外科
阪井田 博司 医師

岐阜県出身
1987年三重大学医学部卒業
静岡県立総合病院・伊勢赤十字病院・桑名市民病院・国立循環器病研究センターを経て、2001年4月~2017年8月三重大学医学部附属病院にて勤務。2005年9月先進的脳血管内治療学講座准教授、2012年9月同講座教授に就任。2017年9月より現職。

Pick
UP

主な取り組み

がん相談支援センター

10月より、がん相談や支援業務をより強化するためがん相談支援センターが開設されました。

がん患者さんやご家族が安心して生活できることを目標に、がんに関する相談をはじめ情報提供、地域資源の調整など、がんにかかわるサービスの向上を目指していきます。



相談場所 管理棟 2階

受付窓口 地域支援センター(入院棟 3階)

相談員 看護師や医療ソーシャルワーカー(MSW)

相談内容に応じて、医師や各部署、関係機関との連携をとりながら進めます。

相談受付内容

- がんや治療に関すること
但し、患者さんが提示された治療が適切かどうかについての相談はお受けしていません。
病状や治療に関する個別相談をご希望の方は、セカンドオピニオン(有料)をご利用ください。
- がんにかかわる社会保障や助成に関すること
- 医療者とのコミュニケーションの取り方
- 心の持ち方
- 家族ががんになった時の支え方について
- 緩和ケアについて

相談できるのは…

- がん患者さん本人(当院を受診されてない方も可能です)
- ご家族の方
- 地域の方
- 保健医療福祉関係者
ご相談いただいた内容については、相談者の方の同意なしにほかの方に知られることはありません。
匿名での相談も可能です。



お問い合わせ先

0594-22-1211(代表) がん相談支援センター宛

◆予約制となります。(相談は無料)

平日9時00分~16時30分(土日祝を除く)

カレーライス専門店(株)壺番屋さんから カレーライスをご提供いただきました。

カレーハウスCoCo壺番屋を運営する(株)壺番屋より、一般社団法人三重県病院協会に支援の申し出があり、加盟する県内16病院に計3,040食のカレーライスを提供していただきました。10月9日に当院でも300食のカレーライスをごちそうになりました。

(株)壺番屋は、新型コロナウイルス感染症の対応に、医療の最前線で日夜奮闘している医療従事者に感謝の気持ちを届け、応援したいとの趣旨から、このような活動に取り組まれています。

提供いただいたカレーライスは、職員の活力と励みとなりました。今後も引き続き、地域医療に貢献してまいります。ご支援いただき、ありがとうございました。



「生命の駅伝」が開催され、 11月16日ランナーが訪問されました。

生命の駅伝は、がん研究の重要性を伝え、その研究を支援するための募金活動を目的に「EKIDEN for LIFE(生命の駅伝)の会」が主催し、今年で26回目の開催となりました。



このイベントは、11月14日～29日の16日間に渡り、三重県全域29市町を駅伝形式で訪問し、募金箱を回収しながら走るものです。

11月16日、いなべ市役所を出発したランナー到着のお出迎えをし、翌日17日には桑名市役所にて、四日市市内の施設へ向けて出発するランナーの出発式を行いました。

当センターからも白石副理事長をはじめとするスタッフが駅伝に参加しました。



Gallery ギャラリー } 絵画等がたくさん飾られているのはご存知ですか？

院内には、寄贈いただいた絵画などがたくさん飾られています。Galleryでは、竹田理事長による作品紹介をシリーズで掲載しています。いろいろな作品がありますので、来院の際にはぜひ本物を探して、お楽しみください。



アンリ・ジャン・テオドール・ファンタン＝ラトゥール(Henri Jean Théodore Fantin-Latour)は、19世紀フランスで活躍したサロン画家。1836年フランス、グルノーブルに生まれ、画家であった父から絵画の手ほどきを受けます。1841年、両親とともにパリへ移住し、国立美術学校で学びながら、クールベなどにも指導を受けています。古典的な写実表現と調和のとれた美しい色彩により描かれる肖像画や静物画は、理知的で重厚感があります。折しも印象派台頭の時期にありましたが、それには一線を画し、ひたすら古典美を追求しました。「女」と題された本絵画には、画面左から光を受けた若い女性の顔が、美しくふくよかに描かれています。理知的な女性ですが、その眼差しと引き締まった口元から、芯の強さを感じます。

ファンタン＝ラトゥール 女 油彩 6号
展示場所：外来棟3階多目的室前

田辺 三重松(みえまつ)は、1897年北海道函館市に生まれ、函館商業学校(現・函館商業高校)を卒業後、家業の呉服店を継ぎますが、やがて家業を廃して小学校や高等女子校の教員となります。この間ずっと画業に励み、二科展や北海道展などで数々の賞を受賞しました。1957年東京へ移住してさらに制作に専念し、「昭和新山」などの数多くの名作を遺し、1971年74歳で死去しました。1963年には半年間欧州を旅行し、帰国後数年間、北欧のフィヨルドやスイスの山々などの風景画を製作したとのことです。この絵も、恐らくその頃に描かれたものでしょう。切り立った山々に囲まれるフィヨルド(湾)と、その片隅にひっそり佇む小さな漁村が描かれています。形も色彩も単純化された山々は重なり合い、奥の方はかすかに明るいようです。山々のシルエットが暗い影を落とす海面、しかし影の無い部分は青白く光り、流れる川のようなようです。使われている色は寒色系が多いのに、なんとなく温かいものを感じるのは、山の輪郭線の柔らかさと漁村の家々が暖色で描かれているからでしょうか。



田辺 三重松 フィヨルドの波場 油彩 30号
展示場所：外来棟3階廊下



ゆめっこ保育園の園庭に遊具の寄贈を賜りました



● 当センターの旧棟の解体工事を担当していただいた建設会社「平野組」さんから、院内保育所「ゆめっこ保育園」の園庭に、「すべり台」と「プレイハウス」を提供していただきました。
● 新しい遊具が入り、園児も大喜びで、元気よく遊んでいます。
● ありがとうございました。





一緒に働きませんか？ STAFF募集中

看護師・助産師・介護福祉士

正規・臨時職員

専門・認定看護師

正規職員

- 応募資格：各種免許を取得済みの方
試験について：**正規** 小論文、面接試験を行います。
臨時 面接試験を行います。
採用日：**正規** 試験月の翌々月1日付
臨時 応相談

看護助手

臨時職員

- 業務内容：入院されている患者さんのお世話や診療補助に関わる周辺業務。
ただし、業務内容については相談に応じます。
応募資格：不問
試験について：随時、面接試験を行います。
採用日：応相談
勤務時間：ご相談に応じます。土・日・祝日勤務可能な方、大歓迎です。

薬剤師

臨時職員

- 応募資格：薬剤師免許取得済みの方
試験について：随時、面接試験を行います。
採用日：応相談
勤務時間：応相談

【お問い合わせ先】

桑名市総合医療センター 総務課

TEL:0594-22-2015

その他のメディカルスタッフも
募集しています。

詳細については
WEBをご覧ください。



★ 職種や勤務形態に関係なく、
「院内保育所」を利用できます。★

- 【対象】 生後57日目～小学校就学前
【通常保育】 昼間保育 7:30～18:00
延長保育 ～20:00
【夜間保育】 20:00～翌7:30